

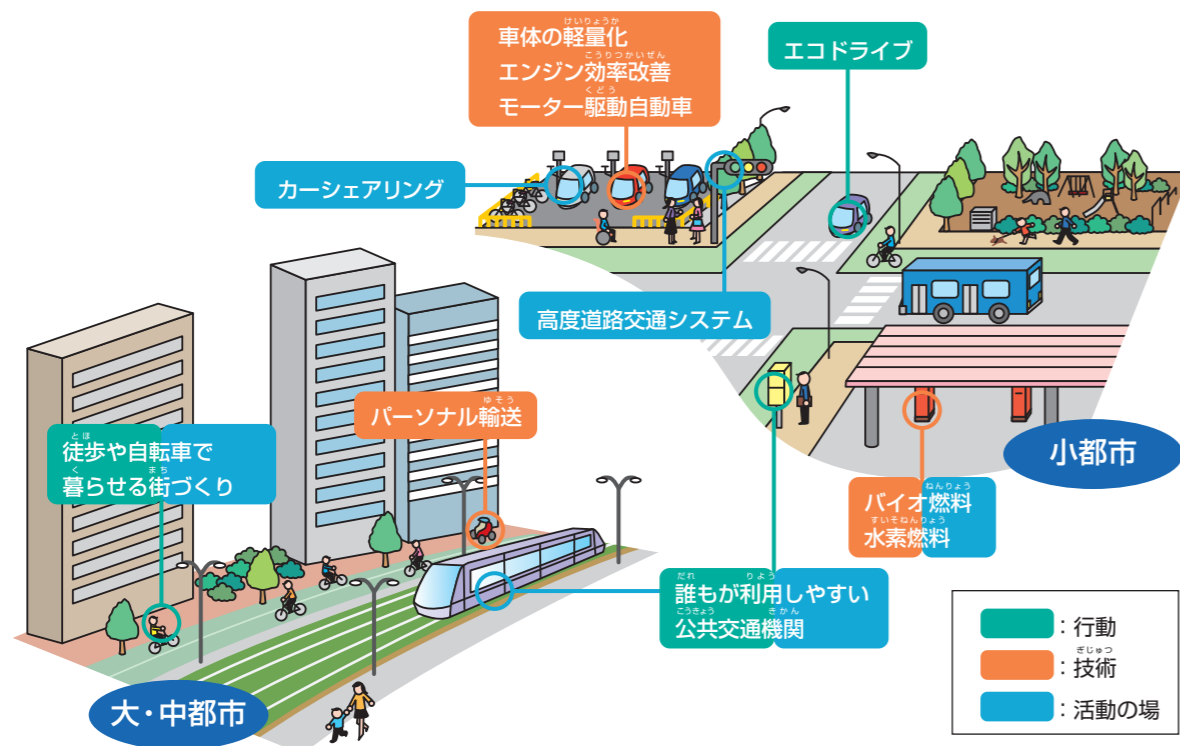


限りある地球の中で、わたしたちが暮らしを続けていくには、たくさんのエネルギーを使って、大量に物を作り、消費して、廃棄するこれまでのスタイルを見直す必要があります。「エコ社会（持続可能な社会）」に変わるために、どんなことをしたらよいのでしょうか。これまで学んだことを思い出しながら、ここに紹介すること以外にみんなのできることをさらに話し合ってみましょう。

1 低炭素社会

低炭素社会における「移動」のイメージ

～みんなが暮らすまちに当てはめて、未来を想像してみてください～



低炭素ってことは、温室効果ガスをなるべく出さないということ。



それにエネルギーの消費もおさえることも大切です。生活は不便にならないのでしょうか。

低炭素社会っていうのは、温室効果ガスを無理なく減らしながら、便利で豊かな社会をめざすということ。環境がよくなって、経済も発展していくというのが、これから求められるエコ社会です。



低炭素社会に向けた12の方策

まわりを見わたしてごらん、当てはまるものがあるかな

暮らし	1 自然にやさしい暮らし 屋上に植物を植えたり、屋根に太陽光発電パネルを設置するなど、住宅や会社に環境にやさしい設備が取り入れられています。	2 買う→賢く借りる 使用回数や利用状況を考えて、最先端の省エネ機能がついた自動車や電気製品などを必要なときに使いたいだけレンタルするという考え方も大切です。	
	3 地域の恵みを旬に食べる 遠い地域からたくさんのエネルギーを使って運ばれてきた食材よりも、その地域で採れた旬のものを食べることが、低炭素社会につながります。	4 木のある暮らし 木はうまく活用すればくり返し使える資源になります。木材を利用した住宅や公共施設づくり、木くすなどをエネルギーに活用することが大切です。	
産業	6 スムースな流通 たとえば、必要なものの量がはじめからわかれば、必要ない分の生産をおさえてエネルギーのムダづかいを減らせます。このようなムダを減らすために、材料の調達→製造→運搬→販売に関係する人々が、情報交換します。	7 歩いて暮らせるまちづくり 路面電車やバスなどを充実させて、車を運転できない子どもやお年寄、体の不自由な人など誰もが歩いて暮らせる「コンパクトシティ」は、自動車にたよりすぎない、環境にやさしいまちです。 <small>注：コンパクトシティとは、市街地のスケールを小さく保ち、歩いていける範囲で生活ができるように考えたまちづくりのこと。</small>	
	8 低炭素型のエネルギー供給 発電所で電気を作るときに大量に出る二酸化炭素をできるだけおさえる工夫をしたり、太陽光、風力など無限にあって、環境に負担をかけないクリーンなエネルギーを利用した「再生可能エネルギー発電」への切り替えをしたりすることが必要です。	9 自分でつくるエネルギー 太陽光パネルをつけた住宅や会社、まちの中にある風車など地域ごとにエネルギーを供給できるシステムは、低炭素社会を支える大きな力になります。	
エネルギー	11 低炭素を製品に表示 住宅、会社、携帯電話、パソコン、商品のタグなどにエネルギー消費量を表示するしくみをつくりまします。わたしたちが環境負荷の小さい製品を選ぶときなどの目安になります。	12 低炭素社会に向けた人づくり 環境教育を行って、環境に対する意識が高く、知識が豊富な人を育てます。環境の専門家が学校や企業でアドバイスをするなど、低炭素社会づくりに向けて人々の意識を変えていきます。	
	分野横断	低炭素社会とは	

(出典：低炭素社会に向けた12の方策(「2050日本低炭素社会」シナリオチーム(独) 国立環境研究所・京都大学・立命館大学・みずほ情報総研(株)))